

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

張掖は、かつてシルクロード交易の中核都市として栄えた。河西回廊の東西のメインルートというまでもなく、祁連山脈を越えて青海省へ行くルートとの交差点となっていた。

そのため『東方見聞録』を書いたマルコ・ポーロも、フビライ・ハンに謁見するまでの一年間を、ここ張掖で過ごしていたとのこと。

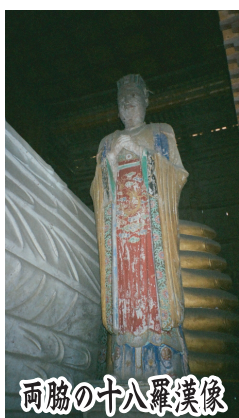
出発を昼に控え、朝食後すぐに大仏寺へ行って来た。ここは約900年前に創建された、釈迦涅槃像で有名なお寺である。



大仏寺の山門



大仏寺の大仏殿



両脇の十八羅漢像



横たわった釈迦涅槃像

釈迦涅槃像は、間口約50メートル、奥行き約25メートル、高さ約20メートルの大仏殿の中に、体長34.5メートル、肩幅7.5メートルという巨大なお釈迦様が横たわり、それを囲んで背後に十大弟子、両脇に十八羅漢と、計28体の塑像（そぞう）があった。現存する建築物は大仏殿、蔵経閣、土塔の三つである。



報恩講内陣出勤



報恩講参拝の様子

今年のお接待当番を担って下さった、武土地区の皆さま、お世話になりました。有難うございました。

ふと、今後この報恩講が受け継がれていくだろうか？と、心配になることもあります。不易流行で尽力して参ります。善教寺報恩講にお参りされた方々と、お接待当番の皆さまの笑顔を決やさぬよう、微力ですが頑張っていきますよ。

住職レター

善教寺の報恩講、先日（十二月二日）、無事に勤め終えました。報恩講は、宗祖・親鸞聖人（一一七三年～一二六三年）の教えと生涯に対する感謝の気持ちを表すために、お勤めされる仏教行事です。

報恩講という名称は、親鸞聖人のひ孫である本願寺第三代覚如上人が、聖人の三十三回忌にあわせて『報恩講私記』を著されたことに由来しています。以来、七百年を超える歴史の中で、先人たちが親鸞聖人ご命日の法要を報恩講として脈々と受け継ぎ、今日まで大切にお勤めしてきました。善教寺が開基されて、五百年超。開基以来、毎年、報恩講は、お勤めされてきたのでしょうか。その時代の生活様式に合わせて、大法要であったり、縮小し質素に勤めたりと、変化しながら、今日を迎えていると思われます。

Buddhist ruins exploration record at silk road シルクロード仏教遺跡探訪記

16日目【2000年4月29日午前】

全37日間

横たわった、巨大なお釈迦様〈張掖～酒泉〉後半

この釈迦涅槃像、近くで見ると余りの巨大さで何とも異様な光景であったが、どこことなく表情に愛嬌があり、西洋的でエキゾチックな雰囲気漂っていた。この釈迦涅槃像をデジカメに撮って見てもらいたかったが、あいにく撮影禁止であった。

昼過ぎには次の都市・酒泉に向けて出発である。張掖駅への足取りが重くなるほど、気持ちまで重かった。なんせ、列車のチケットが、普通座席の硬座である。私が堪え性がないのか、さすがに、もう硬座には耐えられそうになかった。

それで昨日から一計を案じ、「我要一張軟座票。票价是多少錢」というプラカードならぬ紙切れを作っておいた。「軟座のチケットを買いたい!」という意思表示のカードである。これを、軟座専用の車掌に見せることにした。

《追記》当時の探訪記には、釈迦涅槃像は撮影禁止と書いていたが、実は隠し撮りした写真があった。不鮮明であるが、25年経ち、時効だと判断し、今月の寺報に掲載した。



足取り重く向かった張掖駅



大仏寺の土塔



大仏寺の蔵経閣に奉納された御経



大仏寺の大唐西域記

「除夜会」(善教寺鐘樓堂)

十二月三十一日(水曜日)

午後十一時四十五分

*鐘樓堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」(善教寺本堂)

一月 一日(木曜日)

午前七時

「御正忌」(善教寺本堂)

一月 十日(土曜日)

午前十時 朝席

午後一時半 昼席

午後三時半 法要終了

講師 長尾量之師(黒瀬町浄願寺)

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要(善教寺本堂)

一月 十六日(金曜日)

午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

今後の法要スケジュール



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp